

過去7,000年間における別寒辺牛湿 原の環境変動と形成過程の復元

九州大学大学院
理学府地球惑星科学専攻
石川智

背景

- 珪藻類は厚岸湖のような汽水湖沼および湿原地域において、重要な環境指標生物となることが知られている。
- 沢井は、この特性を利用し、チライカリベツ川周辺の湿原におけるボーリング調査から、珪藻を指標として過去約3000年間の微細な海進海退現象を明らかにし、地球の気候変動や津波などの災害との関連について論じた。

目的

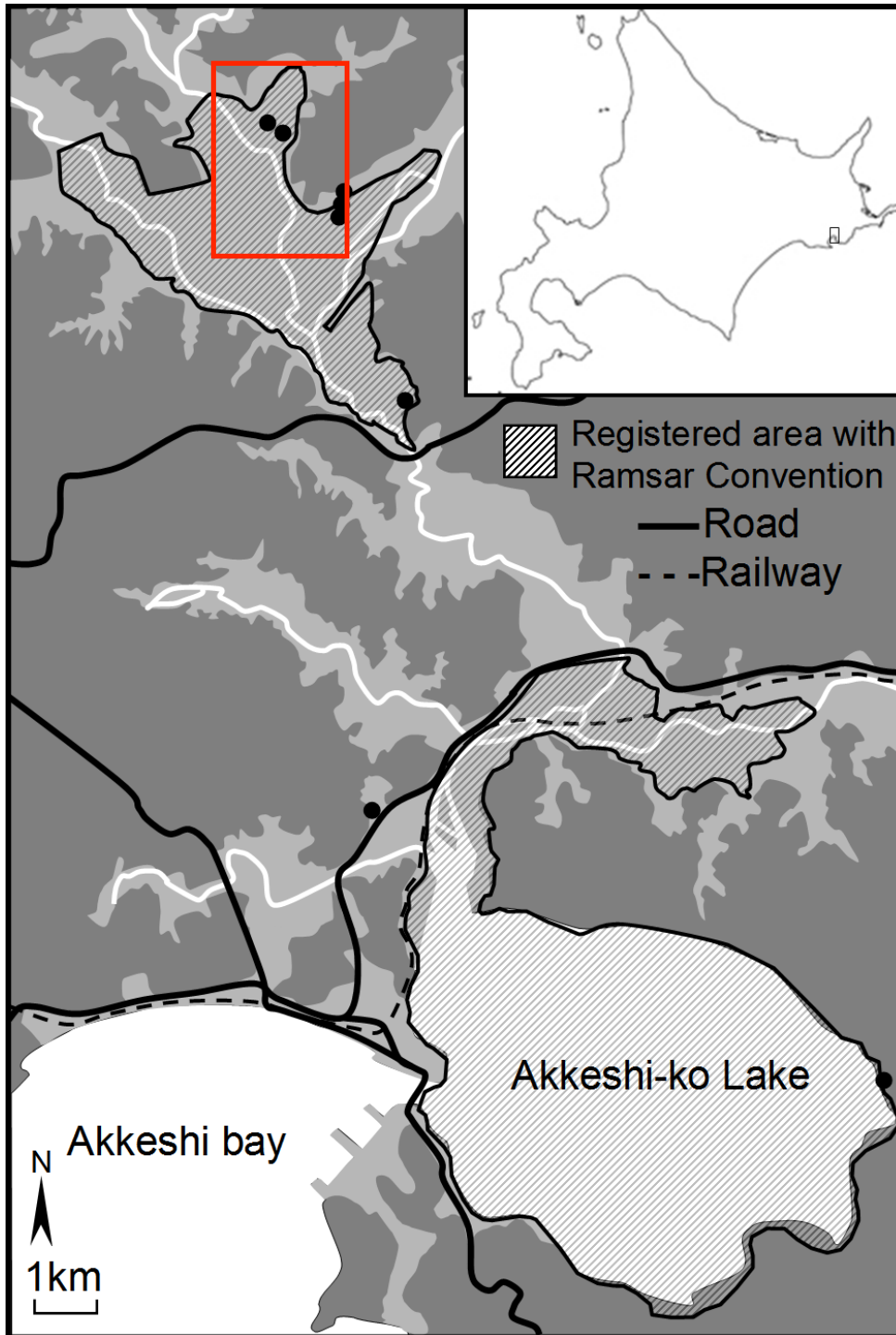
- 厚岸湖と別寒辺牛湿原における珪藻類試料を採取し、その分布と水質・水深などの環境要素との関連を明らかとする。
- 別寒辺牛湿原においてボーリング調査を行い、湿原の形成過程を復元する。

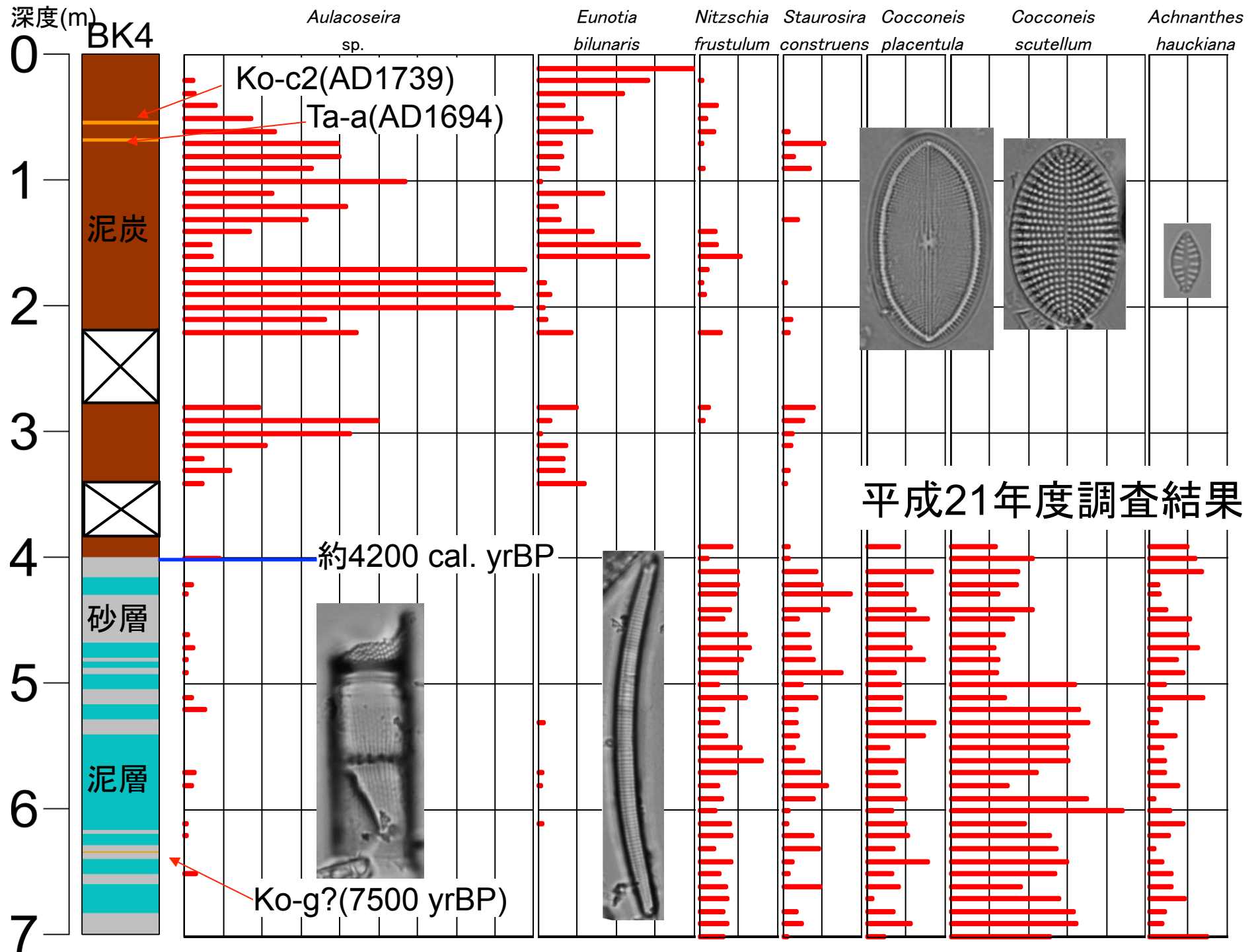
現生試料採取地点

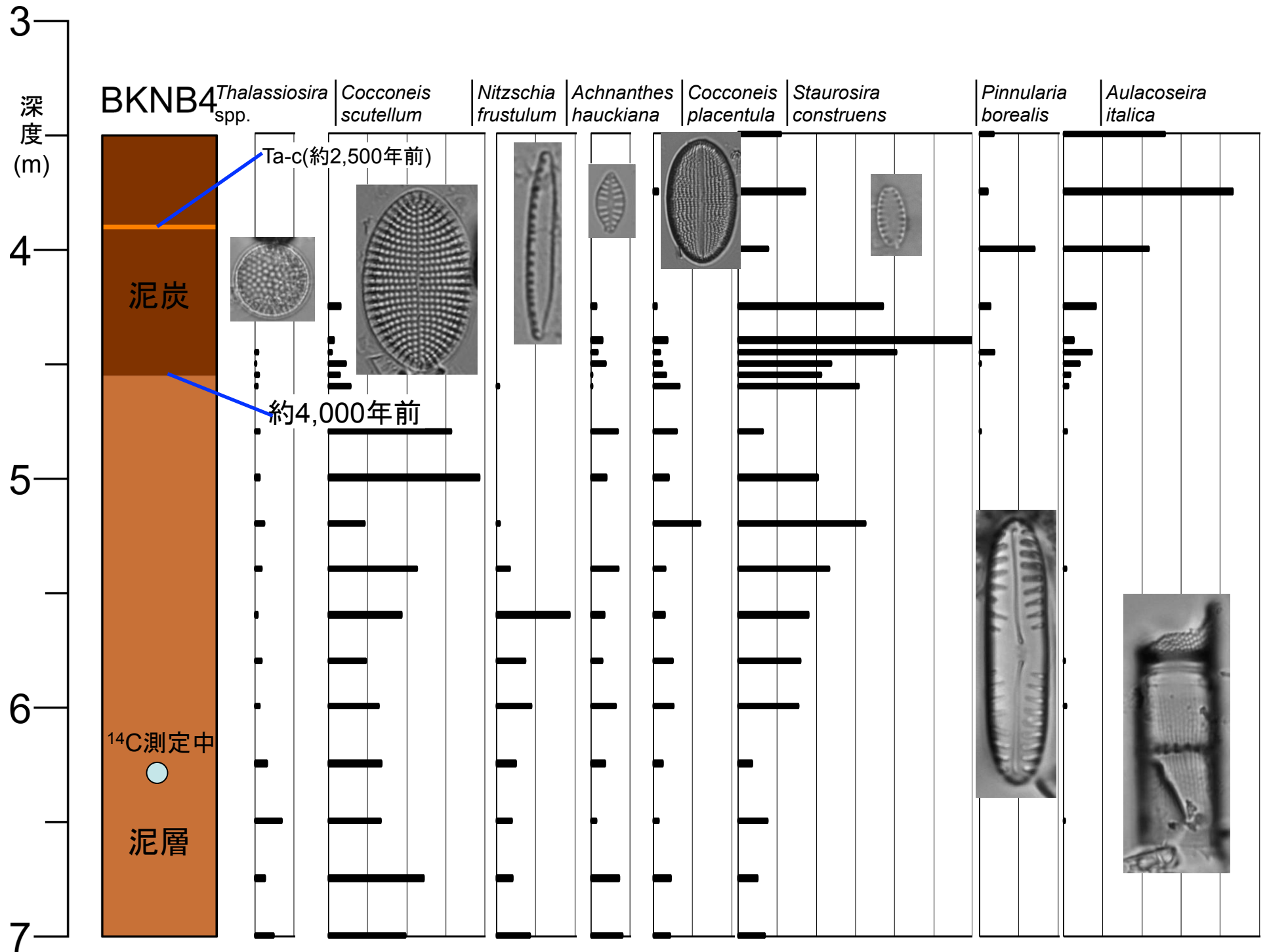


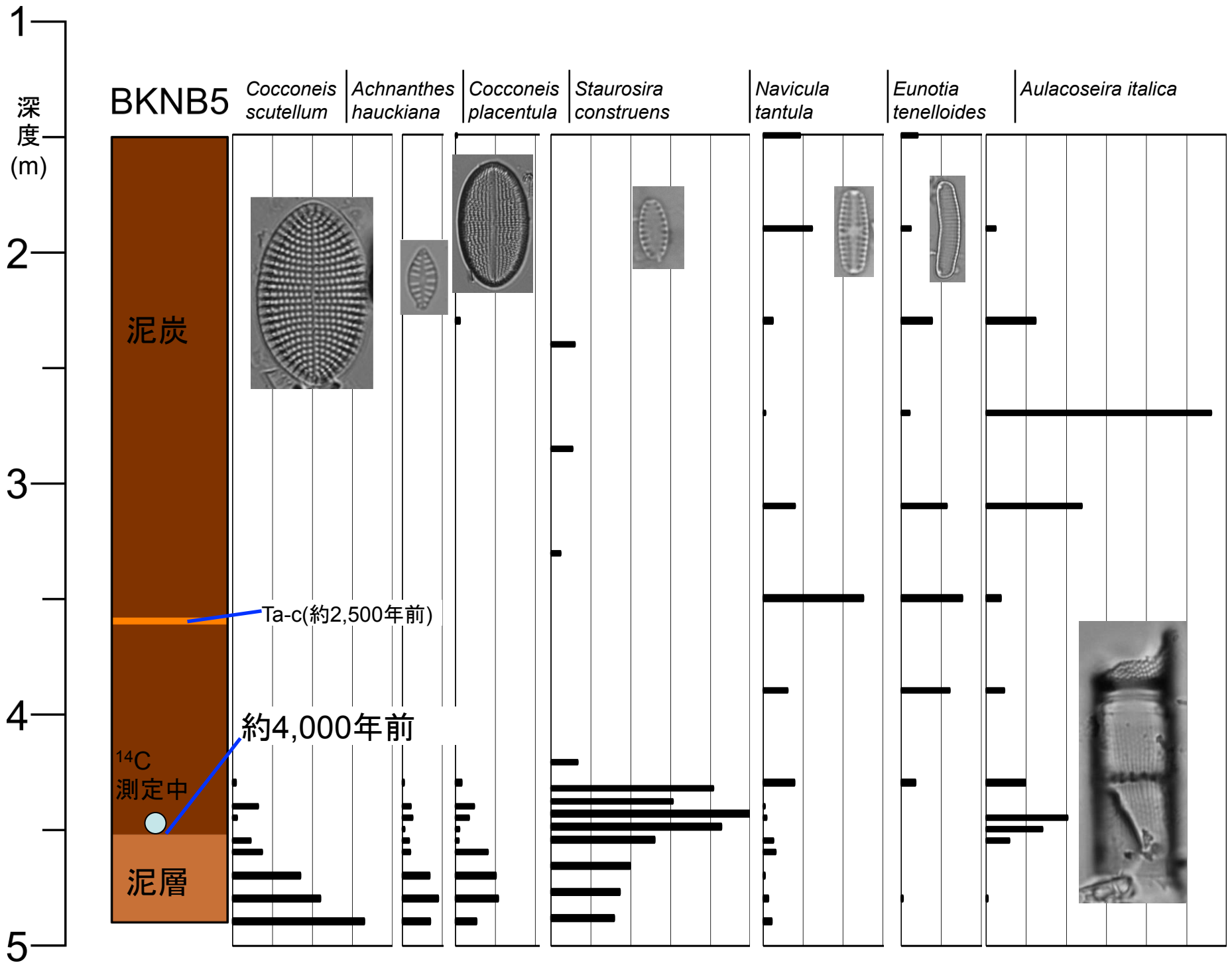
厚岸湖周辺・別寒辺牛湿原内のほか、藻散布沼や霧多布湿原、根室や釧路においても採取を行った

別寒辺牛湿原 ボーリング









まとめ

- 別寒辺牛湿原の奥部において掘削したボーリングコアを分析した。
- コア下部の泥層においては、汽水域に生息する珪藻のほか海生珪藻も少量産出し、海水の浸入が示唆される。
- 泥層と泥炭層の変化は遷移的であり、境界の年代は昨年度のコアとの対比から、約4000年前頃と考えられる。現在放射性炭素年代を測定中である。
- 上部の泥炭層では昨年度のコアと同様、水深の変化を示唆する結果が得られた。